

# 参画協働、まだまだ課題が

## 【市民参画協働の達成状況】

市民が主体となって、また市民と行政が互いに力をあわせてまちづくりに取り組む「市民参画協働」がどれくらい達成されたのかを、市民と市の職員に対して8つの項目でたずねました。

ある程度達成されていることを認める「おおむねできている」とする割合の8項目の平均は市民が5.9%、市職員が12.9%で、市職員と比べて市民の評価はきびしくなっています。

また、「おおむねできている」「できていない」などの選択肢をそれぞれ重みづけして得点化した結果、評価の低い項目として、市民では(8)市民と市が協力し合って市内や地域の課題解決に取り組む機会が充分にある、(6)市の施策や施策案に対して、市民が意見を伝える機会が充分に開かれている、(5)市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間に育っている、などがあげられます。

一方、市の職員では(5)と(8)が低い評価という点で市民と共通しており、協働によって課題を解決する力と市民人材を育成するという点で評価が厳しいことが、市民と市職員で共通しています。

住民参加行事などでも時間のある高齢者ばかりであったりして活力に欠けることが多くあるように思う。若年層などが参画しやすい制度づくりや時間などにしないと、地域での世代格差や、ますます行事などへの参加率が低下するようになると思う。(30歳代男性)

市民の順位	市民参画協働に関わる事項	市職員の順位
第1位	(1)市政に関するさまざまな情報が、市民に対してわかりやすくまた充分に提供されている	第1位
第2位	(7)市民活動や地域活動に取り組むための場が充分にある	第4位
第3位	(2)市民参画協働に関する市の情報が、市民に対してわかりやすくまた充分に提供されている	第5位
第4位	(3)市民参画協働にかかわる団体や催しなどの情報が、市民に対してわかりやすくまた充分に提供されている	第2位
第5位	(4)市民参画協働にかかわる講座などの学習機会が、市民に対して充分に提供されている	第6位
第6位	(5)市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間に育っている	第8位
第7位	(6)市の施策や施策案に対して、市民が意見を伝える機会が充分に開かれている	第3位
第8位	(8)市民と市が協力し合って市内や地域の課題解決に取り組む機会が充分にある	第7位

## 参画と協働についての意識・行動調査 調査方法

調査対象：(市民) 20歳以上の市内居住者 2,000人を無作為抽出  
 (市職員) 特別職・病院の医師や看護師等・嘱託職員・臨時的任用職員を除く 817人  
 配布・回収：(市民) 配付・回収とも郵送  
 (市職員) 各課に配付、市民参画課の連絡箱への投函で回収  
 調査期間：2014年(平成26年)1月27日(月)～2月18日(火) (2月3日(月)に、お礼兼催告はがきを発送)  
 有効回収数：(市民) 970件 (回収率：48.5%)  
 (市職員) 527件 (回収率：64.5%)

調査では、「市民参画協働」をつぎのように説明しました。  
 『市民参画』とは、市民が市政に参画する意思を反映させることを目的として、市の施策の企画立案、実施及び評価の過程に参加することをいいます。また「協働」とは、市民及び市がまちづくりについて、それぞれの役割と責務を自覚し、

### 発行

### 芦屋市企画部市民参画課

〒659-8501 兵庫県芦屋市精道町7-6 電話 (0797)38-2007 ファクス (0797)38-2004  
 Eメール：info@city.ashiya.lg.jp ホームページ http://www.city.ashiya.lg.jp/

# 参画と協働についての意識・行動調査(案)

## 調査結果の概要

芦屋市では、芦屋市市民参画及び協働の条例に基づき、市政に市民が参画し、市民と市が協働して計画的に市政を進めてきました。このたび、市民と市職員に対して参画と協働についての意識と行動を調査しましたので、その結果概要を示します。この調査結果は、第2次芦屋市市民参画協働推進計画を策定するための参考資料とします。

小見出しの横の(民)は市民に対する設問、(民)(職)は市民と市職員に対する共通設問です。調査方法については末尾をご覧ください。

## 安全第一!

### 【地域で気になっていること】

住んでいる地域で気になっていることは、①夜道の暗さや治安などの防犯、②ごみ出しなど衛生環境に関すること、③歩道や通学路などの交通安全が、上位の3項目となっています。



これら治安や安全をあげる意見の傾向は40歳代以下の市民で特に強く、60歳以上の市民では「高齢者の孤立やその見守り」が上位となるなど、年齢によっても気になっていることに違いがあります。

### 全体平均を10ポイント以上上回る意見

男性 40歳代	歩道や通学路などの交通安全
男性 50歳代	夜道の暗さや治安などの防犯
男性 70歳以上	めいわく駐車や駐輪に関すること
女性 20歳代	近所同士のつながりや助け合い
女性 30歳代	高齢者の孤立やその見守り
女性 40歳代	夜道の暗さや治安などの防犯
女性 50歳代	歩道や通学路などの交通安全
女性 60歳代	夜道の暗さや治安などの防犯
女性 70歳以上	歩道や通学路などの交通安全
女性 20歳代	ごみ出しなど衛生環境に関すること
女性 30歳代	高齢者の孤立やその見守り
女性 40歳代	歩道や通学路などの交通安全
女性 50歳代	ごみ出しなど衛生環境に関すること
女性 60歳代	高齢者の孤立やその見守り
女性 70歳以上	高齢者の孤立やその見守り

## ウォッチ・ザ・地域

### 【地域活力向上のために必要なこと】

安心してきて活気のある地域であるために必要なこととして、①住民一人ひとりが地域に対する関心を高めること、②地域の細やかな情報をもっと提供されること、③住民同士の付き合いを盛んにすること、などが上位にあげられています。多くのひとが、地域をよく知り、地域への関心を高め、住民同士のふれあいを高めていくことが大切だと考えています。



住民の多くが参加できるイベントへの支持は、全体では4位ですが、男性30歳代や女性20歳代の比較的若い市民において強く支持されています。

### 全体平均を10ポイント以上上回る意見

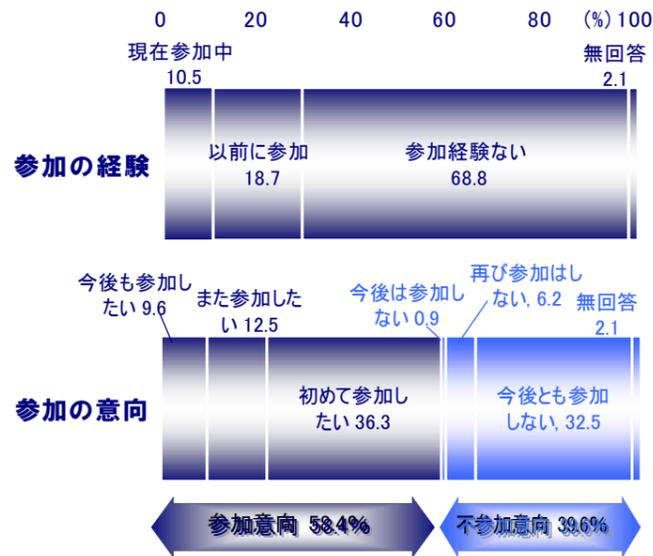
男性 20歳代	地域の細やかな情報の提供
男性 30歳代	住民の多くが参加できるイベント
男性 70歳以上	住民同士の付き合いを盛んにする
女性 20歳代	住民の多くが参加できるイベント
女性 50歳代	地域の細やかな情報の提供

# 意欲にあふれて

## 【市民活動・地域活動の経験や意向】

市民活動や地域の活動に現在参加している市民は約1割、以前に参加したことのある市民は約2割、参加経験のない市民は約7割です。

そして今後の意向をたずねると、市民活動や地域の活動に参加したいと思っている人は約6割にのぼり、参加経験のある市民の割合の約2倍となっています。



# 市民、それぞれに

## 【参加経験のある分野と今後参加したい分野】

参加したいと思う分野として、①スポーツ・レクリエーション活動、②防災活動、③まつりなどの交流行事、などに人気があります。

スポーツ・レクリエーション活動は若い男性、防災活動は男性20歳代や女性50歳代などで支持が高くなっています。男女の30歳代や女性20歳代では子育て支援活動の人気がそれぞれ高いなど、市民の層によって関心を持つ分野は多様です。

皆皆、自分の住んでいる地域が良くなってほしいと思うはず。そういう人たちをどう取り込んでいくかが難しいですね。同じ人がいくつもの団体や活動に参加しているのが実態でしょうか。気軽に参加できる簡単なことから始められるように、ハードルを下げて広く募集すれば良いのではないのでしょうか。(50歳代女性)

# 情報・相談・指導で、あと押し

## 【市民活動などの活発化のために必要なこと】

市民活動や地域の活動が活発になるためには、①市内の団体や行事などについての情報提供を充実する、②集会所などの施設をより使いやすくする、③専門家の派遣など助言や指導する機能を充実する、などが支持されています。

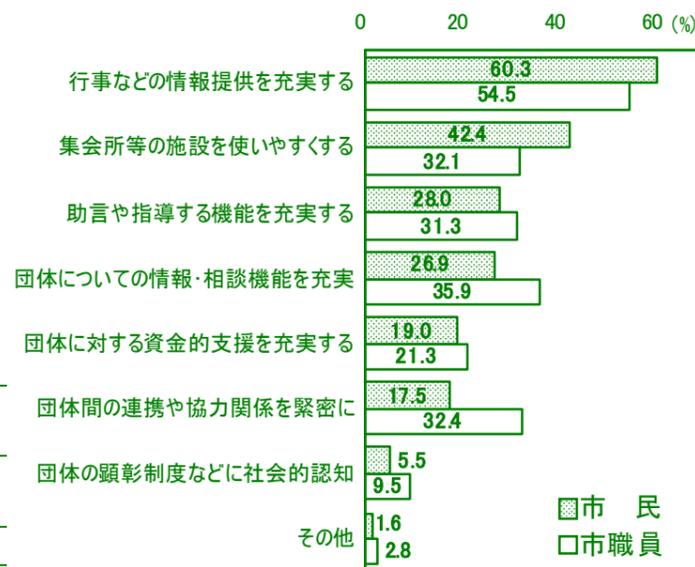
市職員においても、団体や行事などについての情報提供をあげる意見が最も多く、市民の意見と共通しているほか、これに次いで団体に対する情報提供や相談機能を充実することがあげられています。

### 全体平均を10ポイント以上上回る意見

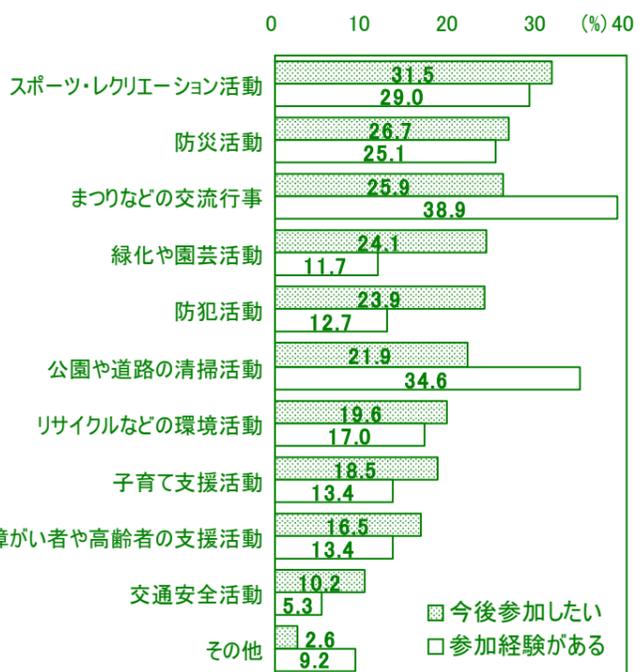
男性 20歳代	団体に対する資金的支援を充実する 団体の顕彰制度など社会的な認知を
女性 20歳代	集会所等の施設を使いやすくする 団体間の連携や協力関係を緊密に
女性 30歳代	団体に対する資金的支援を充実する
女性 60歳代	集会所等の施設を使いやすくする

今回このような調査票が届いたことで、市民参画協働に関して興味を持ったのでこれからもこの調査は続けていくと良いと思います。今まで市民参画協働についてあまり知らなかったのが、今回のように情報をもっと発信していくことで市民の意識が高まるのではないかと思います。自分の住んでいる市で要望がある場合は、どこに意見を言えればいいかわからなかったのが、情報発信をしていってほしいなと思います。よろしくお願ひいたします。(20歳代女性)

情報は細かく、市民に行き渡るように考えていただきたいと思っています。若い世代から高齢者まで、すべての世代に対しての情報を伝える方法を模索してみるべきです。広報紙の載せ方なども工夫が必要です。(60歳代女性)



震災後、周りも新しく家も建て替えられ、住み良い町になってきた一方、高齢化し、世代が変わるにつれ、隣同士のつきあいも遠ざかり、あいさつ程度に。顔も会わさないこともあり、さびしくもあります。以前の商店街の通りには活気があり、人とのつながりが温かく、通り過ぎる人たちのおおらかな風景が昨日のように懐かしく思います。今は店もでき、何となく人の行き来も目に入るようになり、若い人たちの力が活気づけるようなまちづくりを希望し、私も地域活動に参加し、芦屋市民としてなるべく多くの意見を述べるように協力していきたいと思っています。(60歳代男性)



### 全体平均を10ポイント以上上回る意見(参加したい分野)

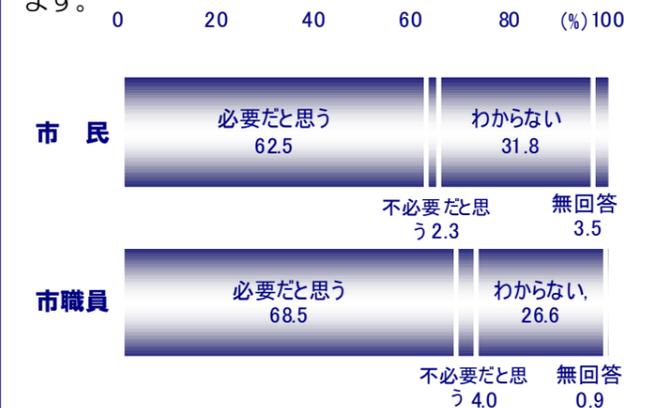
男性 20歳代	スポーツ・レクリエーション活動 防災活動 リサイクルなどの環境活動
男性 30歳代	まつりなどの交流行事 子育て支援活動 スポーツ・レクリエーション活動
男性 40歳代	スポーツ・レクリエーション活動 公園や道路の清掃活動 まつりなどの交流行事 防犯活動
男性 50歳代	交通安全活動 防犯活動
男性 70歳以上	障がい者や高齢者の支援活動
女性 20歳代	まつりなどの交流行事 子育て支援活動
女性 30歳代	子育て支援活動 まつりなどの交流行事
女性 50歳代	リサイクルなどの環境活動 防災活動
女性 70歳以上	緑化や園芸活動

# 力をあわせてニーズに対応

## 【市民参画協働の必要性と理由】

市民参画協働は必要と考える市民が63%と多くなっています。

市職員では69%が市民参画協働が必要であると回答しており、市民の割合を上回ります。さらに、業務で市民や市民団体と協働した経験のある職員ではこの割合が88%にのぼるほか、協働したことの成果があった、と回答した割合は80%と高い割合を示しています。



市民参画協働が必要だと考える理由としては、市民では、①個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため、②市民自治に対する市民の意識の高まりを促進するため、③互いに協働するほうが施策が円滑に実施されるため、が主なものです。

順位は少し変わりますが、市民も市職員も、ニーズへの細やかな対応や施策実施の円滑化などを大きな理由としている点が共通しています。

